ユニバーサルデザイン推進体制を整備

企画部にユニバーサルデザイン室を設置

県行政のすべての分野でユニバーサルデザインを進めていくために、平成11年度、企画部にユニバーサルデザイン室を設け、全庁的な進捗管理と理念の普及啓発に取り組み始めました。

当初、どの部局に室を設置するか、庁内で議論がありましたが、「すべての行政分野にユニバーサルデザインを導入していかなければならない」という考えから、県の総合的な施策のとりまとめ役を担う企画部になりました。その後、生活・文化部への移管（平成16年度）を経て、平成19年度の部局再編により、現在は県民部に移管されています。

推進本部の立ち上げ

全庁を挙げた取組体制として、知事を本部長に教育長や県警本部長、各部局長をメンバーとした「ユニバーサルデザイン推進本部」を設置しました。

推進本部では、行動計画の進捗管理、各年度の推進方針や部局横断的に取り組むテーマの決定、各部局の主要事業の報告などを行っています。

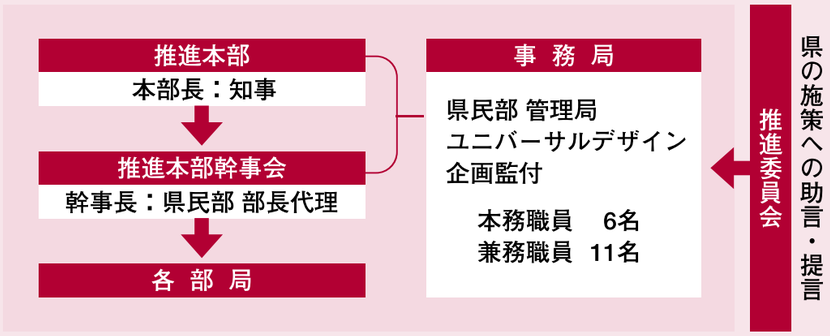
＜第1回本部会議の決定事項＞平成11年4月開催

○ユニバーサルデザインを県政推進の基本的考え方として位置づける。

○これまで、行政の広範な分野にユニバーサルデザインの考え方を取り入れていこうとする自治体の取組事例はないので、走りながら考え、自ら切り開いていく。

○各自の所管業務をすべてユニバーサルデザインの視点から見直し、必要な施策、事業をユニバーサルデザイン行動計画にまとめる。

しずおかユニバーサルデザイン推進体制（平成20年度）



検証と評価のサポート体制も着々と!

学識者や専門家で構成する委員会を設置

平成11年度は、県の推進体制づくりに加えて、学識者や専門家で構成する「しずおかユニバーサルデザイン懇話会」がスタートしました。懇話会では、目指すべき社会像や具体的な推進方策、着実な実現に向けた行政、県民、事業者の役割などについて議論し、提言としてまとめています。

翌12年度には、懇話会を引き継ぐかたちで「しずおかユニバーサルデザイン専門委員会」を設置しました。委員は行動計画に基づく施策への助言や提言、県民や事業者を対象とした講演会の講師、アイデアコンクールの審査、委託研究の評価などを行い、黎明期のユニバーサルデザイン施策の方向性や普及推進活動に、大きな役割を果たしました。

ユニバーサルデザインの県民認識度が6割を超えた平成15年度、専門委員会を「しずおかユニバーサルデザイン推進委員会」に改組し、平成17年度には、新行動計画に基づく施策・事業の実施状況を専門的な立場から検証、評価する外部組織として活動しています。

寄稿

しずおかユニバーサルデザイン推進委員として

川内 美彦
（東洋大学教授、元しずおかユニバーサルデザイン推進委員会委員）

わが国のユニバーサルデザイン（UD）における行政の役割は大きい。静岡県は早い時期から常に全国の最先端で、県民への意識啓発に加えて各種の事業でその実際を示す努力を続けてきており、平成11年4月開園の「富士山こどもの国」などは非常に早い段階での果断な取り組みであった。国の「みんなのための公園づくり」（※1）の発行が同年7月であることからも、その先進性がよくわかる。

私も「ユニバーサルデザインアイデア大賞」の審査に関わったことなどが特に印象に残っている。また平成16年に浜松で開かれた「第10回高齢者・障害者のモビリティと交通に関する国際会議（TRANSED2004）」では、受け入れのホテルに接遇の訓練や部屋のアレンジの仕方などの勉強をしていただいた。

現在ではUDへの取組は全国に広がっているが、静岡県には幅広い人材、経験を持つ強みを生かして、更なる高みへの挑戦を続けていただきたい。

※1:「みんなのための公園づくり ユニバーサルデザイン手法による設計指針」
建設省都市局公園緑地課監修、
社団法人日本公園緑地協会編集・発行

計画に基づく施策の進行管理

しずおかユニバーサルデザイン行動計画の策定

「ユニバーサルデザイン推進本部」では、全庁を挙げて、ユニバーサルデザイン施策を推進していくため、平成12年度からの主要な施策を体系的にとりまとめた「しずおかユニバーサルデザイン行動計画」を策定しました。行動計画の着実な推進を図るため、毎年度、推進本部による実施状況の把握を行うとともに、有識者で構成される推進委員会による検証、評価を行い、常に効果的な施策の展開に努めています。

「しずおかユニバーサルデザイン行動計画」計画期間：平成12年度から16年度

＜主要施策体系＞

○ユニバーサルデザインの考え方の普及
○すべての人が暮らしやすいまちづくり
○すべての人が使いやすいものづくり
○すべての人に配慮したサービス・情報の提供
○自立と共生の社会づくり

「しずおかユニバーサルデザイン2010」計画期間：平成17年度から22年度

＜主要施策体系＞

○ユニバーサルデザインの考え方の普及
○すべての人が暮らしやすいまちづくり
○すべての人が使いやすいものづくり
○すべての人に配慮したサービス・情報の提供
○自立と共生の社会づくり

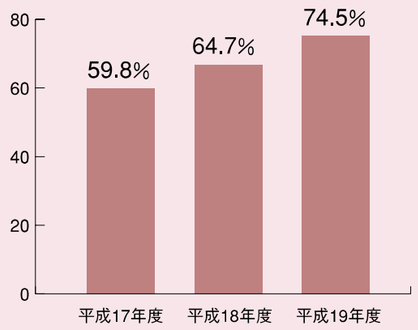
＜重点的に取り組む事項＞

○事業者の取組促進
○子どもへの普及
○高齢社会への対応

＜進行管理＞

目標数値（102項目）を設定し、内部評価（ユニバーサルデザイン推進本部による実施状況の把握）と外部評価（ユニバーサルデザイン推進委員会による実施状況の検証、評価）により、進行管理を行っています。

「しずおかユニバーサルデザイン行動計画2010」
（51%以上達成している数値目標の比率）



ユニバーサルデザイン職員研修を実施

階層別の職員研修を実施

県行政の幅広い分野にユニバーサルデザインを導入するには、職員一人ひとりがユニバーサルデザインの理念を理解し、担当する業務に積極的に取り入れていくことが重要です。そのため、管理職や新規採用職員を対象に、ユニバーサルデザインの考え方を具体的な事例を交えて紹介する研修を実施しました。

また、考え方と併せて、職員自らが、様々な不便さに気づき、改善していくことができるよう、障害のある人や高齢者、妊婦などの疑似体験を通して庁舎を点検する体験型研修も実施しました。

＜職員研修の概要＞

○管理職向け研修・職員研修（階層別）・新規採用職員研修（毎年実施）
○県庁、出先機関での疑似体験による不便さチェック

■ 町村や出先機関にも研修

町村や新規採用職員研修などの機会に合わせたユニバーサルデザイン研修や、出先職員を対象にユニバーサルデザインの概要や県の実践事例を紹介する研修会を県内各地にある総合庁舎で開催しました。

■ すみやかに改修・改善

疑似体験により発見された出入り口の段差解消など、予算内で執行できる改修は、直ちに工事を行うとともに、新たに予算措置を必要とする多目的トイレやエレベーターの設置工事等は、必要性の高い箇所から順次予算化し、改修工事を実施しています。

寄稿

ユニバーサルデザイン職員研修

鴨志田 厚子
（財団法人共用品推進機構理事長、元しずおかユニバーサルデザイン懇話会副座長）

ユニバーサルデザイン（以後UDと記す）について説明するようにと、副知事よりお声がかかり、指示された会場は県庁20Fのホール。知事、副知事、警察署長さんなど県のトップの方、県内各市町村代表の方々がぎっしりと集まっておられた。当日はデザインセンタースタッフの協力で様々な参考品を展示し、なるべく具体例で説明させて頂いた。また、出席者全員に分かりやすい例として、シャンプーとリンスをセットで配布し部署に戻っての説明資料を提供した。しずおかUDはこの時、第一歩を踏み出したと思っている。

これは、偏に石川知事、当時の坂本副知事がいち早く、UDを真正面から受け止め行政に広く推進されたことで継続10年の今日。UD県として静岡県が特記される貴重な存在となっている。しかし、人々は早々個人差を増していく。次のUD10年は更に肌理の細かさ、深さが求められるに違いない。そして、やはり人権が基本であることを忘れずに願いたい。

ユニバーサルデザインの普及活動を展開

県民への普及

ユニバーサルデザインを広めていくには、県民や事業者の皆さんに言葉や意味を正しく理解してもらうことが重要です。このため、県の広報紙やパンフレット、ホームページ、シンポジウム、テレビ番組など、様々な機会やメディアを活用した普及活動を展開するとともに、小・中学校や住民団体、事業者等からの要請に応じて、出前講座や体験教室などを実施しています。

ユニバーサルデザインのアイデアコンクールの実施

平成12年度から毎年度、子どもから大人まで幅広い世代の人たちにユニバーサルデザインのアイデアを考えてもらう「アイデアコンクール」を実施しています。小・中学生の部では、ユニバーサルデザインに関する夢のあるアイデア、一般の部では、実現性の高い未発表のアイデアを募集しています。平成20年度からは、県内でユニバーサルデザインに取り組んでいる企業や団体を対象とする推進活動部門も加えました。

当初、子どもの部では、ユニバーサルデザインの理念を表現したポスターのような作品が多かったのですが、回を重ねるにつれて、開けやすいペットボトルのフタや、お年寄りが夜起きたときに足元をほのかに照らす、ベッド脇に敷くマットなど、暮らしの中での体験に基いて考えられた作品の応募が増えてきました。また、一般の部では、音声やデジタル表示で計測結果を知らせるメジャーや、子どもから高齢者まで家族みんなが使いやすい洗面台など、製品化が期待できる作品が受賞するようになっています。

表彰式（平成20年12月16日）

寄稿

ユニバーサルデザイン大賞は「未来創造事業」

白石 正明
（NPO法人ユニバーサル社会工学研究会、しずおかユニバーサルデザイン大賞審査委員長）

「しずおかユニバーサルデザイン大賞」は世界唯一の事業、かつ児童・生徒の参加が多いという計り知れない価値と可能性を持っています。これまでの参加総数は8,359件、第一回参加者の多くは既に成人式を終えている現在、県の“未来創造事業”とも言えるのではないでしょうか。

提案の質的向上が発現したのは2005年。バリアフリーから本格的UDへと飛躍し、最近はEUの特許申請案を先取りしたデザインが大賞を受賞するレベルになっています。ひとえに県の先見の明、“スマートパワー”を活用した組織的努力に加え家族、学校関係者各位のご尽力の賜物に他なりません。

これからも拡大を続けるUDの認識と波及効果から生み出される、アイデアと英知という資源をどう開発するかが新たな挑戦でしょうか。またそこに「UDの静岡」と県民が胸を張って世界に誇れる、唯一無二のアイデンティティが創出されるのは疑いありません。

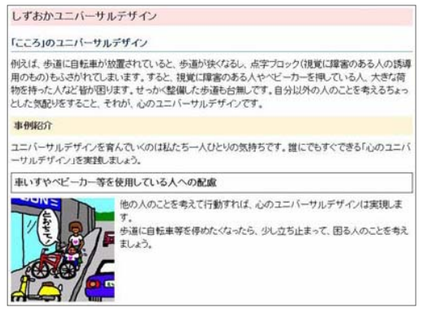
インターネットで国内外に。子ども向けページも充実!

ホームページやメールマガジンで情報発信

21世紀は地球規模で「人、モノ、情報」が行き交う大交流時代です。世界的にも高齢化が進み、20世紀型の社会システムでは、対応が難しい様々な課題が顕在化しています。こうした課題を解決するために、高齢者や障害のある人、外国人など、誰もが暮らしやすい社会づくりをめざすユニバーサルデザインの理念に国内外から注目が集まっています。

そこで、国内をはじめ海外に向けても情報をタイムリーに発信できるインターネットを活用しています。ホームページでは、ユニバーサルデザインの考え方、公共施設や事業者の先進的な取組事例、県が作成したガイドラインやマニュアルの一覧、各種講座等の開催情報などを紹介しています。クイズに答えながら楽しくユニバーサルデザインを学習できる子ども向けページや、海外からのアクセスに対応するため、当初から開設した英語のページに加え、平成19年度には韓国語のページを開設しました。

また、ユニバーサルデザインに関心のある人が会員となり、情報を共有することで、ユニバーサルデザインに取り組む人材のネットワーク化を進めるため「しずおかUDネットワーク」を運営しています。県が事務局を担当し、現在、会員は400名余。メールマガジンでユニバーサルデザインの最新情報やシンポジウム、講演会の情報などを定期的に配信しています。



寄稿

情報のユニバーサルデザイン

関根 千佳
（株式会社ユーディット 情報のユニバーサルデザイン研究所代表取締役、
元しずおかユニバーサルデザイン推進委員会委員）

どれほどまちやもののUDが進んでも、その情報が必要な人に必要な形式で届かなければ、意味のないものになってしまいます。また当事者からの評価や反応こそが、UDを更に進化させるのです。そのため情報端末のユーザビリティや、Webサイトのアクセシビリティといった情報のUDは、大変重要です。海外では法律で定められ、公的機関や企業の調達基準となっています。

静岡県では広報やWebサイトを始め、県内の情報を誰にでもわかりやすくし、双方向の情報受発信を進めてきましたが、これからもより県民側からの情報提供・共有を進め、UDを県内の調達基準としてください。誰もが使える情報や機器しか、許してはいけません。官はUDなインフラを準備し、民はその中でUDに関する知恵を出し合うのです。官民が共に働く「新たな公」が、地域コミュニティにおける21世紀の主役となり、社会の課題を解決するとき、情報のUDはその対話の基盤となるのです。

行政・事業者・県民それぞれに向けて、導入を支援

各種マニュアルやガイドラインの作成

ユニバーサルデザインを県民生活の幅広い分野に取り入れていくためには、その拠り所となる基準や指針を示していくことが重要です。そこで、行政や事業者のそれぞれの事業に合わせた導入マニュアルや、県民一人ひとりに“心のユニバーサルデザイン”を呼びかけるパンフレットなど、各種の普及用資料を作成しています。

行政の多様な事業に応じた導入方法を提示

誰もが利用しやすい施設づくりのための公共建築物への導入マニュアルや、高齢者や色覚に障害のある人にも見やすく読みやすい印刷物を作成するためのガイドライン、イベントを開催する際の配慮事項などをまとめた冊子等を作成し、行政での推進を図っています。

事業活動への導入マニュアルを業種別に作成

暮らしやすさを実感できる県民生活の実現には、事業者がユニバーサルデザインを事業活動に取り入れて製品やサービスを提供することが求められています。小売業、宿泊業、製造業、建築業の産業分野ごとに、導入のための具体的で実践的なアイデアやヒントを紹介する冊子を作成し、講習会等を通じて配布し、事業者の取組促進を図っています。

大切な“心のユニバーサルデザイン”

道路や建物などの公共施設整備や鉄道駅へのエレベーターの設置が進む一方で、交通機関や障害者用駐車場での人々のマナー違反を指摘する声が聞かれるようになりました。誰もが暮らしやすい社会づくりを進めていくには、困っている人や高齢者、妊婦などを優先したり、思いやりの心をもって行動したりする“心のユニバーサルデザイン”の実践が欠かせません。

そこで“心のユニバーサルデザイン”を紹介したパンフレットの作成や車いす使用者用駐車場に「私は停めません」と宣言してもらうマナーアップキャンペーンを実施し、施設整備とともに重要な“心のユニバーサルデザイン”を、県民一人ひとりが暮らしの中で実践するよう呼び掛けています。

道路や歩道・公共建築への導入

社会基盤への導入

少子高齢化が進展する中、誰もが、安全に安心して活動し、社会参加できる生活空間の形成がますます重要になっています。県では道路や公共建築物など社会資本へのユニバーサルデザインの導入を積極的に進めています。

道路や歩道の整備

「静岡県まちづくり条例」などに基づき、利用する方々と事前にまち歩きを行い、車いす使用者がすれ違えるよう歩道の拡幅・段差・傾斜・勾配の改善、エレベーターや分かりやすい案内看板の設置など、移動しやすい導線の確保に努めています。

公共建築の整備

“使う人の視線から”を基本理念に、まず、施設のサービスの特性と利用対象者を想定・分析し、人の動き、必要設備などを勘案して基本計画を検討し、詳細設計に反映させるというステップを大切にしています。特に、ハード面での整備とソフト対応での融合を目指し、それぞれの有利性の中での相互連携を図ることによって、初めて誰もが利用しやすいユニバーサルデザインを活かした公共建築になり得ると考えています。

寄稿

ユニバーサルデザインによるまちづくり

川口 良子
（株式会社川口建築都市設計事務所専務取締役、
元しずおかユニバーサルデザイン推進委員会委員）

街路等の公共空間の設計に携わるようになり、「まちづくり」を志向していく過程で、私はUDの考え方に出会った。まちづくりの現場に大きなやりがいを感じながらも、異なる利害、価値観、嗜好による様々な意見・要望に、空間的、技術的、経済的等の様々な制約が加わる複雑な状況に戸惑い、まちづくりにおいて、本当に大事にすべき目標や、納得できる進め方を模索していた。そんな中出会ったUDの「すべての人のデザイン」の言葉は、ゆるぎない目標として心に住み着いた。そして、それまで大事にして取り組んできた「住民参加によるものづくり」が、UD実現の方策としても不可欠なものとして確信することができ、立ち位置が決まった。様々な立場や状況の人が共に考え、相互理解を深めながら、その時の状況での最適解を見いだしていく。そして、創ったら終わりでなく、よりよいものへと常に改善しながら理想とするUDに近づけていく。そのための仕組みや進め方をコーディネイトする。そうした自分なりのまちづくりにおける流儀を見いだせた。UDに感謝である。

県有施設に率先導入!

ユニバーサルデザインで県有施設を整備

ユニバーサルデザインを県民の皆さんに理解し、実感してもらうため、新たな県有施設や既存施設の整備や改修に当たり、ユニバーサルデザインを導入しています。こうした施設整備とともに、分かりやすい案内サインの設置や職員による適切な応対など施設運営や維持管理が誰にも利用しやすい施設づくりには、大変重要です。

■ **富士山こどもの国**は、園路の勾配を5%以下にし、音声誘導案内、触知図、車いすの貸し出しなど、施設全体にユニバーサルデザインを導入しています。（平成11年開園）

■ **小笠山総合運動公園**では、スタジアムやアリーナのほか、最寄りのJR愛野駅から公園までの連絡路を含めて、ユニバーサルデザインを取り入れて整備しました。公園の入口には、2箇所の階段と動く歩道、スロープカーを設置しているほか、スタジアムの2層目の最前列に296席分の車いす使用者用観覧席を設置しています。（平成13年供用開始）

■ **県立総合病院**の外来部門では、増築等で分かりづらくなった病院内の案内サインをユニバーサルデザインの視点から改修整備しました。外国人にも分かりやすいよう、診療科や検査部門等に番号を付けるとともに、視覚に障害のある人にも足元から位置を知らせられるよう、交差点の床材を変えるなど五感に訴えるサインを目指し、整備しました。（平成14年実施）

■ **県営住宅**への導入では、段差解消やエレベーターの設置、1階に高齢者や障害のある人のための住居を配置しています。敷地内には、多数のベンチを配置し、交流の場づくりにも配慮し、誰もが快適に暮らせる環境づくりを進めています。

■ 県立静岡がんセンター（長泉町）・県富士水泳場（富士市）・県武道館（藤枝市）・県立大平台高等学校（浜松市）などの整備に当たっても、ユニバーサルデザインが導入されています。

組織の縦糸・横糸を通し、部局連携を強化

部局を横断した取組

ユニバーサルデザインを取り入れる分野は多岐にわたります。従って、ユニバーサルデザイン施策の実施に当たっては、各部局での取組に加え、関係する部局を横断して行うことが必要です。こうした組織の横断的な取組は、多様な県民ニーズに対応する効果的なユニバーサルデザイン施策を推進する上で大変重要です。

このため、毎年度、ユニバーサルデザインに関する特定テーマを選定し、関係部局が連携して検討し、より有効で効果的な施策の推進を図っています。

＜主要なテーマと検討結果＞

■「事業者への取組促進」

事業者・団体等の取組を促進するため、産業別のアイデア・ヒント集を作成しました。（小売・流通業、ホテル・旅館業、製造業、建築業編）

■「私は停めませんキャンペーン」

車いす使用者がいつでも駐車場を利用できるよう、一般の人の理解を深めるマナーアップキャンペーンを実施しています。

■「実感、心のユニバーサルデザイン」

職員向けの来庁者への対応マニュアルを作成しました。

■「ユニバーサル園芸」

農業・雇用・福祉の面から、あらゆる人の農業体験の場となる市民農園の開設や、障害のある人の就業支援などを実施しています。

寄稿

アイデア・ヒント集「みんなが喜ぶ店づくり」の制作にあたり

鈴木 淳
（NPO法人ユニバーサルファッション協会副理事長、
元しずおかユニバーサルデザイン推進委員会委員）

私達が毎日の生活を過ごすうえで、買い物をしたり、外食をしたり、サービスを受けたりする等の、お店との関わりは欠かすことができません。お店がUDに配慮することで、さらに毎日の生活が豊かで便利になることは間違いありません。

さて、制作にあたっては事例集めにたいへん苦労しました。バリアフリーやUDを名乗っている小さなお店がほとんどなかったからです。そこで私達は、考え方を変えて、地域で愛されている人気のお店を取材し、その中から「UDのエッセンス」を探し出していくことにしました。すると人気のお店ほど、普段私達が気が付かないような商品陳列、値札の付け方、接客方法まで、あちこちに細かな配慮がされていることがわかりました。お客様が感じる不便さや不満を敏感に察知して、少しずつお店や接客サービスを改善していく姿勢が支持されて、やがて人気店になっているのだということがわかりました。

まさに「みんなが喜ぶ店づくり」を実践することが、お店もお客様も喜ぶことになるのではないでしょうか。

世界も注目!しずおかユニバーサルデザイン

海外との交流

世界的に高齢化が進展する中で、国内はもとより、欧米やアジアなどから、本県のユニバーサルデザイン施策に関心が集まるようになってきました。

これまで、韓国や台湾、フランス、カナダの大学や団体等からの招聘による海外での講演や、イギリスやオーストラリア、韓国などからの視察調査団、韓国の大学からインターンシップの学生を受け入れるなど、海外との交流も多くなってきています。

カナダの世界会議で知事講演

平成20年9月には、カナダ・モントリオールで開催された「第9回世界高齢者団体連盟世界会議」に知事が国内自治体からは唯一人招聘され「ユニバーサルデザインで、誰もが暮らしやすい社会づくり」をテーマに基調講演を行いました。10年にわたる公共施設や県内企業の実践事例の紹介に、参加者からは、高齢化の最先端にある日本の自治体が推進しているユニバーサルデザイン施策に高い関心が寄せられました。

フランス自治体職員に講演

平成20年2月には、自治体国際化協会パリ事務所が主催する日本の先進的な行政機関の取組を紹介する事業での招聘を受け、フランス地方自治体幹部職員応用研修所（モンペリエ市）でユニバーサルデザイン施策を紹介しました。参加者からは「障害のある人への個別の対策はあるが、障害のある人、高齢者など幅広い人々を対象とするユニバーサルデザインの考え方は、これからの高齢社会に大変有効な施策だ」という感想や、施設の新築や改修費用についての質問がありました。この講演がきっかけとなり、研修所では「建築物へのユニバーサルデザイン」が研修テーマとして初めて採用されることになりました。

第3回国際ユニヴァーサルデザイン会議で情報発信

国際ユニヴァーサルデザイン協議会主催「第3回国際ユニヴァーサルデザイン会議」が浜松市で平成22年に開催されます。会議では、研究者の論文発表に加え、国内でユニバーサルデザインに配慮した製品づくりを行っている先進企業の展示会など、最先端のユニバーサルデザイン情報が発信されます。本県のユニバーサルデザイン施策の紹介に加え、県民が最先端のユニバーサルデザインに触れられる機会として、期待されます。

UDで新たな製品やサービスの市場を創出!

県内企業の取組

誰もが暮らしやすい社会の実現には、はじめから、できるだけすべての人が利用しやすく、すべての人に配慮された、「まち、もの、環境」づくりが必要です。

公共施設への導入に加え、企業・団体等がユニバーサルデザインを事業活動に取り入れ、多様化する消費者ニーズに応えられる付加価値の高い製品やサービスを提供することで、成熟化が進む国内市場の中に新たな需要を生み出していくことが期待されます。

＜取組事例＞

自動車メーカー

自動車は、現代生活ではなくてはならないものの一つです。県内の自動車メーカーでは、使いやすいシフトレバーを選べたり、子どもが乗り込む際に危険なところに手を掛けない配慮をしたりするなど、設計の段階からなるべく多くの人が利用しやすい車づくりを行っています。

商業施設

県内のデパートやスーパーマーケットでは、子どもから高齢者、障害のある人が快適に買い物できるよう、授乳室や多目的トイレの設置、広い通路、障害のある人や高齢者のための駐車スペース、視覚に障害のある人のための歩行誘導ブロックなど、ユニバーサルデザインを取り入れた整備が行われています。

ホテル・旅館

ホテルや旅館では、障害のある人が利用しやすい客室や段差がないバスルーム、ファミリートイレの設置など、車いすやベビーカーを利用する人が使いやすい施設づくりが行われています。また、県内には多くの温泉地があり、高齢者や車いす使用者、外国人などが宿泊する旅館では、スロープや障害のある人が利用できる広めのトイレ、大浴場には、入り口から浴槽までの手すりや、多言語の案内板を設置するなど、ユニバーサルデザインに配慮した施設が増えています。

タクシー会社

タクシー会社では、車いす使用者も乗車できるユニバーサルデザイン仕様のタクシーを運行しています。運賃も通常と同額に設定し、病院への通院や多人数での移動など様々な場面で利用することができます。

ユニバーサルデザインの課題と今後

競合するニーズの調整

少子高齢社会の急速な進展に伴い、ユニバーサルデザインの重要性は高まっています。しかしながら、ユニバーサルデザインの導入に当たり、高齢者と若い人、障害のある人とない人など、それぞれの特性や不便さに基づくニーズなどが競合する場合があります。

ユニバーサルデザインによる社会づくりを進めるには、行政をはじめ、事業者、団体などが取り組むことに加えて、地域の状況を知っている住民の積極的な活動が欠かせません。どういうことが不便なのかチェックし、積極的に提言していくことで競合する多様なニーズの調整役としての役割が期待できます。これまでの部分最適型の社会からユニバーサルデザインによる全体最適型の社会にしていくために、住民の活動と行政や事業者の取組が大変重要です。

多様性を受け入れる

行政をはじめ事業者、NPO、県民がそれぞれの役割の中でユニバーサルデザインを取り入れることで、高齢者や障害のある人などが自由に活動し、いきいきと生活できる社会が実現します。行政の根幹は「すべての住民の福祉の向上」にあり、これはユニバーサルデザインと密接に関連します。

行政や企業・団体等で、企画や設計に携わる人が当たり前のように最初から「すべての人」を意識し、利用者もこうした取組を評価し「すべての人」の多様性を積極的に受け入れられるようになったとき、ユニバーサルデザインは暮らしの中に溶け込み、ことさら意識されなくなるようになります。

魅力ある“しずおか”を目指して

大量生産による大量消費、平均的な人を対象に経済活動が行われた20世紀から、21世紀は人類共通の財産である自然に負荷をかけない環境の時代と言われています。環境保護と同様に、科学技術の進歩により、世界的な長寿社会が到来し、ユニバーサルデザインはますます重要になっています。

静岡県では、市町村、事業者、団体、県民の連携と協働により「すべての人が自由に活動し、いきいきと生活できる“魅力あるしずおか”」の実現を目指し、ユニバーサルデザインへの取組を進化させていきます。

第2章

10年のあゆみ

平成11年度（1999年）4月
⋮
平成20年度（2009年）3月